研究分野２〈一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程〉

小・中・高 12 年間の系統的な指導を目指した知的障害教育における教科指導の在り方の実践研究

～学習評価を生かし、安全・安心に過ごすための力の育成を通じて～

千葉県立香取特別支援学校　電 話　0478－72－2911
FAX　0478－72－4179

研究のポイント

昨年度の取組を通じて、学習評価が各教科等の『カリキュラム・マネジメント』を進めることが明らかとなり、各学部おいて系統的な計画の構築に取り組むことができた。今年度は、年間指導計画の評価・改善からはじまり、その計画に基づいた授業での評価・改善を次時の授業や、ひいては年間指導計画の見直しへと繋げていく過程を通じて、各学部間のつながりを見出し、学校の１２年間の系統性を図った教育課程の作成を行った。一連の計画については、評価の観点として学習グループ内を実態別に分けて考え、個別性に迫った評価を行うことにより、児童生徒にとって個別最適な学びが得られる教育課程の構築を目指せるようにした。

また、研究の推進にあたっては、各学部間の系統がわかりやすいよう、対象とする教科・領域等を、小学部は生活単元学習、中・高等部は社会科とし、その中でも『安全・防災』というテーマに絞り、研究を進めた。

■学校の概要 https://cms2.chiba-c.ed.jp/katori-sh/?pcviewer_flag=1

本校は昭和５４年に開校した、知的障害のある児童生徒を対象とした学校であり、令和５年現在１３０名が在籍し、それぞれ香取市、成田市、東庄町、神崎町等から通学している。小学部・中学部・高等部が設置されており、児童生徒の様々な実態に対応するべく、「知的障害に応じた各教科等の指導及び各教科等を合わせた指導」「自立活動を主とする教育課程」を設けて教育活動を行っている。

■研究課題

学習指導要領の趣旨を踏まえた、知的障害の教科指導の在り方について実践研究を行う。

■研究の目的と方法

【研究の目的】

学習指導要領に基づき立てられた年間指導計画をもとに、CAPD サイクルに則った授業改善を行う中で、学びの連続性を重視した教育課程や教科指導の在り方を検討する。

【研究の方法】

①高等部を卒業後も安全・安心に過ごせるための、本校における『つけたい力』を、アンケートを基に集約・決定する。

②明らかになった『つけたい力』の獲得を目指し、評価の場面や方法等を具体的にするとともに、様々な評価方法で見取るために、より個別性を高めた評価の

内容や方法を設定する。
③授業研究会を通して、その妥当性を検証、得られた成果と課題を授業や教育課程の改善へと繋げていく。
④『つけたい力』の育成を目標に、各学部間の取組を共通理解し、各学部で取り扱う授業内容を精査・摺り合わせをする。

■研究概要

検証ポイント

①学習指導要領に基づいて立てられた年間指導計画をもとに授業改善を行う

【成果】

明確化された観点に基づいた学習評価と授業改善を行うことで、より具体的、個別的な学習評価及び授業改善に迫ることができた。

②学びの連続性を重視した教育課程や教科指導の在り方を検討

【成果】

つけたい力に基づいた、学部間の系統性を意識した年間指導計画作成の実施。卒業後にも生かせる力の育成について、学校全体で検討し、方向性を確認することができた。

【課題】

・評価規準や評価基準の設定の仕方
→アセスメントの各項目や検査内容を比較・吟味し、実態と照らし合わせ、目標や評価規準・基準へと活用していくこと。

・学習評価の年間指導計画への有意義なフィードバック
→単元の単位での学習評価を行い、確実に年間計画に授業改善の内容を繋げること。

・年間指導計画の教科間の関連性への意識の向上
→児童・生徒の資質・能力の伸長を目指し、各教科の見方・考え方を活用して、教科横断的な年間指導計画の作成に取り組むこと。

関連資料

・『特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』
・『特別支援学校学習指導要領解説 総則編（高等部）』
・『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　各教科等編(小学部・中学部)』
・『知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント』　丹野哲也・武富博文【東洋館出版社】
・『知的障害教育におけるアクティブ・ラーニング』　武富博文・松見和樹【東洋館出版社】
・『新学習指導要領を踏まえた「学習評価」の工夫』　武富博文・増田謙太郎【ジアース教育新社】